

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	雨水貯留浸透施設設置補助金交付事業	会計	下水道	事業No.	297	施策順No.	41-005
		事業種別	政策・その他	予算科目	2-1-2-10-1		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	下水道課		
施策	41 災害対策の推進		事業期間	開始	21	終了	25

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市民の生命・財産						A.十分達成した B.どちらかといえば達成した C.どちらかといえばできていない D.ほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市内居住者(人)			106024	105036	105036	
	意図	・浸水被害(家屋の床下、床上浸水、道路の冠水)を軽減する。 ・雨水貯留・浸透により、清水や湧水の復活・増加等、地下水の涵養が促進され、水辺環境の向上が図られる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	雨水浸透柵、雨水貯留槽の設置済基数(基)		10	109	100	76	100	C
	雨水浸透柵、雨水貯留槽の設置率(%)=設置済基数/目標基数			109	100	76	100	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	22年度は機会を捉えることPRをしたが急速な社会情勢の変化や不安定な経済状況下、雨水浸透施設11基、雨水貯留施設65基の合計76基の設置となり、目標の100基を達成することができなかった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	健全な水循環系の再生、水資源の有効利用及び総合的な治水対策の一環として、宅地内の雨水の有効利用及び流出抑制を図るため、雨水貯留浸透施設を設置する者に対し、設置費用の一部を補助する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	個々の施設(個人住宅、事業所)に雨水浸透柵、雨水貯留槽の設置普及(補助)を行う。	1 設置基数 2 補助金額	1 76基 2 1,728,000円
23年度実施計画	個々の施設(個人住宅、事業所)に雨水浸透柵、雨水貯留槽の設置普及(補助)を行う。	1 設置基数	1 100基

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金		500	500	500	
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		4,500	1,228	4,500		
計(A)		5,000	1,728	5,000		
正規職員所要時間			40			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			143			
トータルコスト A+B			1,871			

計画区域内設置に新世代下水道(国補1/2)

4 事業に対する市民や議会の意見

市議会平成21年6月定例会(第2回)、永井議員より、雨水貯留槽・雨水浸透柵の有効性が認識され、本事業を「大いに進めていただきたい」との意見を頂いている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	・市民、市内滞在者、財産に対し災害や火災からの被害を軽減する。	施策の成果指標又はムトス指標	ムトス指標 市民が災害に備えている割合
この事務事業は施策の目的達成にどのようにつながりましたか	4年間の振り返り	・雨水貯留・浸透施設の設置費用を補助することで普及を図り、災害対策の推進、水環境の保全を促進した。		
	後期に向けた課題	・雨水の流出抑制、水環境の保全、水道水の節約等の効果を合わせてPRL設置をふやすことが必要である。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・21年4月以降の設置者に対する補助金制度「飯田市雨水貯留浸透施設設置補助金交付要綱」を制定。・21年4月国交省「新世代下水道支援事業」制度(市補助額の1/2国補助)の採択を取り付けた。・設置モデルの展示、公共施設への設置、まちづくり委員会、市公式ウェブサイト、マスメディア、チラシの作成等による情報発信によりPRをしてきた。・建築士会、浄化槽事業者協会、排水設備指定工事店などへの制度PRをしてきた。		
	後期に向けた課題	・設置基数増につながるより効果的な方策の検討が課題。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・事業費の主なもの補助金である。チラシ等の作成もロゴグラフで行い必要最小限の費用で事務を行っている。		
	後期に向けた課題	・災害対策の推進にむけて、創意工夫により最少の費用で最大の効果が上がるよう検討することが必要。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・設置費用の半額以上を受益者負担としており市の補助は適切である。 ・雨水対策の推進に市は関与するべきである。		
	後期に向けた課題	・災害対策、環境対策、節水対策を総合的にPRして設置の促進を図る。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①主体は市民や事業所で、施設設置により災害対策の推進、水辺環境の向上に寄与いただいている。 ②施設設置をしていただけるよう制度PRを行なった。		
	後期に向けた課題	・市民、まちづくり委員会、施工業者、建築業者など多様な主体を巻き込んだ協働による設置普及への方策検討。 ・制度をより多くの人に理解いただき設置基数の増加を図る。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・要綱制定、国補助制度採択により雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助制度の確立ができた。 ・災害対策と水環境の保全につながる事業である。		
	後期に向けた課題	・防災面での効果、環境面での効果、節水面での効果をより前面に出しての啓発を検討していく。 ・補助制度が利用できる環境が整備できたので、設置数の増につながる取り組みを行う。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------